**第２回大阪府日本万国博覧会記念公園運営審議会魅力創出部会記録《要旨》**

○日時　　平成２６年７月３０日（水）　１３：００～１５：００

○場所　　大阪府日本万国博覧会記念公園事務所　第１応接室

（吹田市千里万博公園１－１　万博記念ビル４階）

○議題　（１）「太陽の塔」内部公開手法について

（２）将来ビジョンについて

○出席委員等　　更家会長、中谷委員、生井委員、平田委員、石川委員、小泉専門委員

○事務局　　府民文化部理事　ほか

**【開会】**

＜審議会規則第５条第２項の規定により、会議の成立を報告＞

＜府民文化部理事挨拶＞

**【議事】**

＜資料説明　資料３＞

**事務局**

7月14日の審議会で、展示室の規模に対して多くのものを詰め込みすぎであるという　ご意見をいただいたので、展示内容の見直しを行った。

事務室については、入場券の販売や事前予約受付、急患発生時の救護対応、迷子の　　　預かりや災害時における安全確保等の観点から、原案の面積は必須と考えている。

塔内の観覧時間を1時間程度と想定しており、高齢者や障がい者に対する配慮の観点　から、トイレは必要。地上にトイレを設置することは、景観上の問題から困難と考えて　　いる。

前回の展示内容案は、「生命の樹」の理解を深めるために、大阪万博当時のテーマ館における展示や岡本太郎氏の発想・創作の過程について、模型などを用いて解説するものであった。これを「太陽の搭」南側の地下展示室にあった「地底の太陽」を復元展示する案に変更している。

当時は、地下展示を巡った後に「太陽の搭」内部に入り「生命の樹」を観覧した。

今回の案では、「地底の太陽」を復元するとともに、透明スクリーンによる投影で地下展示空間を体現していただき、その後「生命の樹」を観賞することで一層の感動を持ってもらう形となっている。

なお、本案では工事スケジュールへの影響はないが、トイレの設置を取り止めた場合、設計変更することとなり、修正設計に必要な期間に加え、建築基準法における性能評価・大臣認定、建築防災性能評価、計画通知などの変更手続が必要となる。

万博機構においてこれらの手続きを行った際は、約10ヶ月の期間を要したため、仮に、設計変更となれば、内覧開始が大きく遅れる可能性がある。

**石川委員**

前回の案は詰め込みすぎの印象があったが、今回の案は、大変迫力のある展示となってよいと思う。ただ、お手洗いは何基入るのか。外にもトイレがあるのではないか。

**事務局**

トイレは、地下展示部分から約100メートルのところにあり、移動に相当の時間が必要となる。障がい者用トイレは約150メートルのところにある。

地下トイレのブースについては、最小限の規模に止めているので、男性は2～3ブース。女性は2ブース。

**石川委員**

地下展示部分にトイレが必要不可欠というのであれば、私はよいのではないかと思う。

展示内容は非常によくなったが、資料では展示部分まで段差があるように見える。　　一般的にはバリアフリー。ここだけが気になる。

**事務局**

平面図上では段差があるように見えるが、実際は色彩表現で階段状の演出を行う。　　ここは人が入らない部分。展示の反対側部分を通路として約2.5メートル確保。その部分を車椅子の方にも通行していただくことになる。したがって、通路部分はバリアフリー。

**石川委員**

通行できるのはこの2.5メートルの部分のみで、スクリーン越しに展示を見るという　ことであれば、ただでさえ狭いのに、どうなるのかなと思う。少し気になる。

**堺屋ゲストスピーカー**

前回の審議会で、空間が狭いからトイレと事務室は、この中に造らない方がよいという話になったと思うが、どうしてここで復活されたのか。

100メートルも離れないところにトイレと事務室を造って、中は警備員の休憩スペースのみにすると決定したはず。なぜ、勝手に変えたのか。

**事務局**

事務室については、ここでチケットを販売し現金の取扱いを行う。見学には1時間程度必要とされるため、途中で気分が悪くなった方への救護対応、万一、塔内部において　　　事故等が発生した場合には、即座に職員が対応できるよう待機スペースを確保する必要があるなどの理由により必要と考えている。

また、トイレについても、必要最小限で設定。これも1時間程度とされる見学時間で、特に、高齢者、障がい者の方に対する対応が必要になってくるため、内部に設置したもの。

**堺屋ゲストスピーカー**

年間入場者数の見込みは、どうなっているのか。

**事務局**

最大で年間18万人。1日あたり1,190名。1時間あたり170名。

**堺屋ゲストスピーカー**

先日10年ぶりに万博公園を訪れたが、世界中の万国博覧会場でこんなに閑散として　　いるところはない。

パリの万国博覧会事務局で、世界中の万国博覧会跡地は有名な公園になっているのに　大阪だけは唯一例外だという話が出た。ロンドンのハイドパークや、パリのエッフェル塔周辺も、世界的に有名になっているのに大阪だけはそうではないと言われた。恥ずかしいこと。その理由は、目標値の低さにある。

大阪府の、日本の誇りになるようなものにするため「太陽の塔」は立派であるべき。　　年間18万人の入場者数見込みについて、もう少し大きくできないものか。前回も申し　　上げたが、黒字にして、大阪府の財政にも貢献するようにするためにはどうしたらよい　のかが始まり。

新しい展示の形式を存分に取り入れることはできないのか。トイレと事務室は　　　　別途考えるべきだという議論が前回の審議会であった。今聞いたら、トイレは2人くらいしか入れないとのこと。これは人数の制限を低くみているからだ。真剣に考えていた　　だきたい。

**事務局**

1日あたり1,190名という数値は、「太陽の塔」が建築物として認められる際に、　　　　国土交通大臣の全館避難安全検証法という認定があり、制約がかかっているという事情　から導き出されたもの。

たくさんの方に入場していただきたいが、このような条件で大臣認定をいただいた。　そのため、1日あたり1,190名となっている。

**更家部会長**

耐震工事にはすぐに取りかからなければならない。原案を変更すると約15億円の整備　　費用が見込まれることと、耐震設計の根本見直しには10ヶ月以上の期間が余分に必要と　　なることもあり、とりあえず本案でスタートさせていただきたい。

やはり、「太陽の塔」内部展示方法を含めてトータルで公園の魅力アップをさせていく感覚を持ったプロデューサー的な方を指名することが必要ではないか。

**石川委員**

私は「太陽の塔」は世界遺産になるものだと思う。先日の審議会で「おもちゃ箱のようになる。これでは恥ずかしい。」と申し上げたのは、大阪府には世界遺産になるべき財産があるという思いから。

資料を見ると本当に狭い空間。私達がモノを造るときは、まず、簡単な模型を造っている。ダンボール等、低コストでいくらでも造ることができる。本件でそれをやってみると、いかに狭いものなのか実感できると思う。

提示されているダイナミックな展示案が足元にあれば、迫力があると思うが、トイレ　など基本的なものはしっかりと検討すべき。樹木の後ろに造るとか、エコ建築で緑で　　覆ってしまうなど、方法はいくらでもある。かえって、こちらの方が施工しやすいのではないか。

気持ちとしては、世界遺産に向けて骨太の方向性があるべきだと考える。

**更家部会長**

運営費の6千万円については、これを是とするのではなくて、総合的な収入と支出の　　バランスも必要。

**堺屋ゲストスピーカー**

20世紀の間は、日本の象徴として「太陽の塔」の模型が世界中に出回っていた。世界的にも評価されていたものだから、もっと目線を高くすべき。

**事務局**

「太陽の塔」における限られたスペースをいかに有効に使っていくのかということに　なる。我々としても、「太陽の塔」魅力アップのため最大限の展示スペースを確保したい。

しかし、安全確保のためのスペースや、トイレのスペースは必要であると考える。

**中谷委員**

提示案では大変狭い。最初、動線の計画や滞留時間を考慮せずに入館可能者数を算定　しているところに疑問を感じたが、説明を聞いて、それができない理由は理解できた。

しかし、別のフロアに広めのトイレを造るなどといった案はなかったのか。図面で見るより実際はもっと狭いと思う。もともと非常に狭い展示空間の中で、どうしてもトイレが必要だというお考え。そこに別の案がなかったのか。

**更家部会長**

耐震工事は早期に実施しなければならないというミッションもある。

**堺屋ゲストスピーカー**

地下を掘って展示スペースを拡張するとか、トイレを通路でつなぐといった案は　　　考えられないのか。

**事務局**

トイレについて、「太陽の塔」背面部分への設置や、地上部分への別途設置など　　　　いろいろ検討した。

工事費用、景観的な配慮、利便性の確保など、様々な観点から検討を行った結果、今回提示させていただいた案がベストであると考えている。

**堺屋ゲストスピーカー**

お祭り広場の地下のトイレを改修して既存の地下通路まで繋げた場合、工事費用は　　いくらになるのか。

**事務局**

整備費は、当初の9億円から15億円になる見込み。

**更家部会長**

通路部分も耐震対応をしなければならないので費用がかかるということ。現在、工事費は高騰している。今回トイレの設置はやめて、総合的な公園整備の中で設置すれば　　　いかがか。

**平田委員**

公園の魅力を高めつつ儲けなければならない。黒字を出していくということであるが、運営する法人を考えることが大事。あとは、総合プロデューサー。コンテンツ全体を　　　一人の方が見る。見続けていくことが大事。採算面はずっと見続けていく法人。　　　　　コンテンツ面は、一人の総合プロデューサーが必要ではないか。

また、重要文化財のあるところに行くとトイレはない。例えば「この先、トイレは　　　ありません」と明確に表示する形になっている。「太陽の塔」は世界遺産になるべき　　　文化財。そのありがたみを高めるやり方もある。トイレや事務室、救急看護場所が　　　　なければならないという発想は、行政として妥当な考え方。

しかし、ここは一歩、世界遺産的なこととして、弾力的な検討をすることはできない　　ものか。今さら、国宝の五重の塔の中にトイレを造るとかはあり得ない。

**更家部会長**

ガバナンスについては、将来ビジョン検討の中で、議論をさせていただきたい。

**石川委員**

先程、平田委員からとてもよいお話があった。平泉の金色堂は、世界遺産に指定されているが、トイレは100メートル以上離れたところにしかない。それでも、たくさんの　　　お年寄りも来られている。

**事務局**

構造を見直すと、平成28年度末の内部公開が1年遅れることになる。

**平田委員**

トイレをなくすと、さらにもう1年かかるということなのか。信じられない。だからといって、せっかくの世界遺産の中にトイレを造る。時間がないからトイレを造らなければならないという議論ではない。

**事務局**

繰り返しになるが、高齢者や障がい者に安心して見学していただけるようにすることが重要であると考えている。景観も考えて最終的に塔内部に設置することとしているが、　　中にあるということが非常に重要であると考えている。

**小泉専門委員**

私は、目標を高く設定して世界遺産にするということは賛成。むしろ、世界遺産に　　　しなければならない。その一方で、現実的な問題があることも理解できる。

「太陽の塔」を見に来る人には、外観だけ見る人と中に入って見る人とがいる。中に　　入る人は、非常に貴重な経験をすることになるので、それを鑑みたものを造るべき。

体内が広いか狭いかは問題ではない。狭いのが当たり前。狭いところに価値がある。　　そのような考え方もある。ただ広ければよいというものでもないし、大勢入ればよいと　いうものでもない。中に入る人には高い料金を払っていただく。それで採算を考えることもあるのではないか。

内部をいかに魅力ある空間にするかが重要で、広さの問題ではない。しかし、リスク、弱者の件とはバランスの問題。

**更家部会長**

地上でトイレを造れるのではないかという意見があった。一方で、景観上問題があるという意見もあった。これらは、総合的なプロデュースの中で検討すべきであるが、今は　　時間がない。特に耐震工事は早く実施しなければならないため、とりあえずこれで　　　スタートするということでいかがか。

コメントだけ残して、展示部分の演出の仕方や入場料金などは専門的に考えながらと　いうことで。

図面は、大阪府が作成したのか。

**事務局**

原案は、万博機構時代に作成したもの。

**生井委員**

トイレについては、世界遺産として登録されているものの中にはない。私達が観光客を案内するときは、必ず歩いていただいて「トイレはここで済ませてください。１時間後にしか戻ってきません。」と言う。「太陽の塔」を世界遺産にするのであれば、やはり世界　　基準というか、スタンダードなものに持っていくべきではないか。

中に造った場合、外に造った場合と仰っているが、中に造れば相当狭くならないか。

**堺屋ゲストスピーカー**

図面上ではトイレや事務室に相当の面積がとられている。これで、緊急対応ができるのか。別途地下に造って繋いだほうが安全。提示案は中途半端にそこに置いているという　感じがする。

**事務局**

「太陽の塔」の中に入っていただくのがメイン。本来、プロローグ空間は動線上の空間であって、大勢の方に入っていただくことができるのであれば、それに対応したトイレの整備が必要になってくるが、先ほど申し上げたように、入れる数が最大1日1,190人。　　安全対策も含め総合的に判断し、この位置にしたもの。

**更家部会長**

「太陽の塔」だけが孤立するということではなくて、公園全体の施設整備をどうする　のかがベースにあって、「太陽の塔」だけで救護やトイレを完結する発想ではないことは認識していただきたい。

以前から言っているように、公園全体を盛り上げる。特に、ゴールデンゾーンの施設と結び付ける。内部展示については、効果的な展示手法を考えるべき。プロでやっている　　人がいる。そこをうまく活用しながら世界遺産レベルに上げていけないものかという　　我々の希望がある。

**石川委員**

万博公園には森がある。トイレは、森の中にエコハウスのような形で設置するとか、　　エントランスゾーンにサービス施設という形で設置するなどの手法で整備できる。何も　莫大な費用をかけて、地下に直結しているトイレは必要ない。

シンボルゾーンについて、これだけ議論があるのに、既存のトイレがどこにあるとか、資料ではわからない。

**事務局**

補足させていただく。「太陽の塔」は工作物。不特定多数の人が中に入って見学する　　ことになると建築基準法に抵触し、建築物扱いとするための申請が必要となる。これだけ特殊な形をした建築物は、建築基準法上想定されていない。

そのような中で「太陽の塔」の内部公開を実施するためには、高層評定という国土交通大臣の認定や全館安全非難検証法による人数制限、火災報知機の設置など、様々な手続きが必要となってくる。

また、観覧の人数に制約が出てくるのは、全館安全非難検証法による認定があるため　である。

**小泉専門委員**

トイレを美しくすることは重要。環境を意識したものもあるし、トイレ自体を緑や花で覆うとか、アートオブジェとしてのトイレを造ることも考えられる。

それなら「太陽の塔」の近くに造ることで、より一層価値を高めることも考えられる。いろいろ可能性はある。

**更家部会長**

トイレを外すと工事期間が10ヶ月延びる理由を説明していただきたい。

**事務局**

「太陽の塔」内部空間と新たに設置するプロローグ空間の整備をセットにして大臣認定申請した。これらは、万博機構時代に認定が終わっている。プロローグ空間の面積が拡大したり、中の構造物であるトイレや事務室に変更が生じると、再度取り直しとなる。　　　先ほども説明させていただいたが、その手続きに機構時代で10ヶ月を要したということ。

**更家部会長**

とりあえず、耐震も含めて早く実施することが重要。将来、全体的なプランの中で、　　場合によっては再検討。要するに「将来検討するということで提示案を承認する」ということ。このような取扱いは可能か。

**事務局**

将来における変更などはあり得るが、この案で整備を進めさせていただけるというのであれば可能。

なお、一旦整備を行うと構造的に固まってしまう。変更となると、工法が大きく変わることになる。

**更家部会長**

「時間が間に合わないので、これで認めてもらいたい。」ということか。

**事務局**

お示しの案から変更すると時間がかかるということ。早期に内覧を始めたいという　　ことと、すべての方に安心して見学していただけるようにしたいという考え。

**更家部会長**

皆さんよろしいでしょうか。一応、その方向でやろうと。ただし、事務局におかれては、我々が言っている内容についてご理解いただきたい。

**事務局**

審議会のご意見は、我々として理解してやってまいりたい。

**更家部会長**

ありがとうございます。課題はあるが一応この案で執行いただくということ。委員の　皆さん、よろしいでしょうか。

**平田委員**

もう、決まっていたということなのか。いつ、決まったのか。

**更家部会長**

こういう案で、機構時代に一旦大臣認定等の手続きを済ませている。

**平田委員**

それは、いつだったのか。私は、最初の審議会の時に、変えることができるところと　　できないところをはっきりすべきだと申し上げた。

**更家部会長**

変えることはできるが、そうすると内覧開始が２年も３年も遅れる。将来的には見直しも検討することも含んで、これでスタートするということで、皆さんよろしいでしょうか。

なお、石川委員が仰った世界遺産を目指すという構想を持って取り組むことを明記しておいていただきたい。

（委員から、異議の声なし）

**事務局**

我々も世界遺産を目指したい。「太陽の搭」完成から間もなく50年を迎えることになるので、その間に文化財登録を目指したい。今、ご承認いただいたので、平成28年度末を目指し、お示しの案で内部公開できるよう進めてまいりたい。

**更家部会長**

それでは、将来ビジョン案のご説明をお願いする。

＜資料説明　資料４＞

**更家部会長**

今後のスケジュールを示していただきたい。

**事務局**

8月12日に緑整備部会、8月26日に本審議会を開催。ビジョン骨子の中間報告を　　　　いただきたい。

それに併せて、プロポーザル方式で提案いただける事業者を選定し、その後の審議会において事業者から出てきた提案についてお謀りしたい。将来ビジョン骨子に肉付けをするイメージ。事業者からは、事例収集や実態調査結果を踏まえた提案をもらいたいと考えている。

なお、最終答申をまとめていただく時期は１月で、パブリックコメントもいただきたいと考えている。

**小泉専門委員**

国立民族学博物館と大阪日本民芸館は一体化して運営した方がよい。民芸館には貴重な収蔵品があるが集客力がない。

民博はアクセスが悪い。阪大側から入れるようにした方がよい。大阪モノレールの　　阪大病院前駅は乗降客の多い駅。それなのに、北側から公園に入れないのはおかしい。　　西側からも一般の人は入れない。この動線は変えなければならない。

足の不自由な人が乗り物に乗って移動できる手段も検討が必要（例えば「動く歩道など」）。移動自体を魅力的なものにすることを考えるべき。それだけでも随分変わってくる。

民博は34万点の収蔵品を所有し、その数は増加している。しかし、その大部分は　　　　収蔵庫に眠ったままの状態。もったいないので、私達の学会が六本木の国立新美術館で　展示する実験をしたところ、非常に評判がよくたくさんの人に来ていただいた。その　　ような機会を作れば人が来る。収蔵庫に入っていったり、一度も公開されていない収蔵品をどんどん外に出していくことが必要。その一部分を駅の近くに持ってくることはいかがか。

大阪万博当時、「太陽の塔」の中には仮面などがたくさんあった。民博は、素晴らしいものをいっぱい持っている。それを「太陽の塔」と結びつける。あれだけ大変な資産を　　持っているのだから、有効に利用するように、たくさんの人が見ることができるように　して、その貴重さについて伝えることを考えていくべき。

**堺屋ゲストスピーカー**

明治神宮外苑も駅から結構遠い。それでもたくさんの人が来るのは、歩くのが楽しい　から。この距離を遠いとは思えない。万博公園に来る人は、大阪万博当時の様子を楽しみに来るべきであって、この中を移動手段を用いて移動するというのは退廃。むしろ、　　　ここに来る人はこの公園の魅力を楽しみに来る。また、スポーツイベントも関西一円ではなく、世界を対象とすべき。

この前も言ったが、生駒山や葛城山系の緑地とどう住み分けるのか。ここだけで大阪の緑を全うするというのは無理。東京と違って、生駒も六甲もあるところ。万博公園には　　高度な文化施設、高度な緑地、立派な日本庭園があるのに、あらゆる観光雑誌を見ても、出ていない。観光庁に聞いたら、日本十選に入っていないとのこと。

なぜ、どこにも出ていないのか。要するに、楽しくするところができていない。　　　　行われていないからだ。安全管理は適切に行われているが、皆を幸せにするという施設が　全くないからではないか。これだけの日本庭園があったら、恐らく日本一になると思う。どこに欠点があるのか。遠いというが、明治神宮で千駄ヶ谷から歩くよりずっと近い。

また、国立競技場で行われるイベントで花火をあげても、近隣住民からは反対の声が　上がってこない。

そして、若手芸術家ではなく世界中の芸術家でなければならない。バブルのときに若手芸術家の作品を集めて作った施設は、うまくいっていない。世界に冠たる場所にしたい。その意気込み、目線の高さが、ビジョン案の文章からは感じられない。大阪万博終了時の　コンセプトを継承しているのは時代遅れ。緑、緑と言う時に、生駒の緑とはこのように　　違うんだ。葛城の緑とこのように違うんだ。というものを出さないと、この公園が　　　　かわいそうだ。

日本庭園は、なぜ流行らないんだ。なぜ人が来ないんだ。ということを真剣に考えて　　もらいたい。お金はたくさんかけているのに、目線が低いというのが理由だと考える。

**更家部会長**

世界的目線で提言できる人を探してくることが必要。プロポーザルで形式的に事業者を募集してできるのか、疑念があるが。

目線を高くと言っても、事務局は過去の経験の中から文章を書いている。そこにギャップが出てきていると思う。

**事務局**

審議会の委員の皆さまから、大所高所の観点から、ご意見をいただいている。審議会の運営を通じて、将来ビジョンに反映できればと考えている。

**更家部会長**

我々は、方針や、こういう方向がいいんじゃないですか、とは言える。しかし、それを詰めて表現していく必要がある。世界の最前線、一流のところの接点がないと、その　　　レベルまでは行けない。

**小泉専門委員**

遠さが問題ではないということは、全くそのとおり。北海道の旭川動物園は、遠くてもあれだけの人を集めている。目線を高く、プロジェクトは大きい方がよい。

公園の周辺の方に来ていただく。広域から来ていただく。そして、国際的なことを考えていこうという順番になっているが、むしろ、逆にした方がよいのではないか。

まず、世界を考える。いや、世界だけを考えてみてもよい。国際的な拠点になれば、　　　自然に世界の人も日本の人も来てくれる。近いところの人のことを考えるではなく、遠いところの人のことを考える。そんな考え方で書くと、随分変わってくると思う。

**石川委員**

ニューヨークのセントラルパーク、パリのヴァンセンヌの森、ロンドンのハイドパークなど、それぞれの都市には、胸を張ってこれだと言える緑がある。生駒や六甲の緑と　　　万博公園の緑がどう違うのか。ここは都会のど真ん中。いわゆる都市の森。都市の中の　　　森ということが、生駒や六甲の緑とは違うところ。

セントラルパークなどでは、目標がある。なぜ、セントラルパークを地価の高い都会に造ったのかというと、デモクラティックパーク、アメリカの理想である民主主義を実現　する空間として造られたから。ブローニュの森は、ペストやコレラの流行でパリが混乱　していたので、人間性を取り戻す場所として造られたもの。

では、万博公園は何なのか。本質的な問いが必要。単に外から来てもらうということ　　ではなく、なぜ大阪は万博公園を造ったのか。その思想的な原点、それが人類の進歩と　　調和という言葉に象徴されるのだが、そういう問いかけがベースになっているのでは　　ないか。

セントラルパークやブローニュの森には、人間で言うと骨格に相当する緑がある。　　幸いなことに、万博公園にはそれがある。この公園は骨太のものができている。　　　　　何がないかと言うと、人がやってきて、使ったり楽しんだり学んだりするという、緑と　　セットになったプログラムが十分ではない。

セントラルパークには、貧しい人にミルクを与えるミルクステーションがあり、今でも残っている。ミルクを与えるということで、公園の中の人と公園が関わる拠点になって　いった。ブローニュの森は、セーヌ川から水を引いて回遊できる池を造った。

骨組みになるきちんとしたプログラムの構築が必要。プログラムに関しては、だれが　どういう形でかかわりを持つのか。ボランティアでも構わない。食の文化を提供するものであれば、レストランの方でもよい。

今、東京では浜離宮が人気。そこでは茶室を整備するというプログラムがきちんと構築されている。そういうことをやれば、いくらでも人が来る。

**平田委員**

プログラム作りについて、年々高めていくためには、事務局のご苦労も多いと思う。　　数年経てば異動しなければならない。事務局構造をどうするのか、毎年毎年大きくして　いくという体制作りを、総合プロデューサーがいればできると思うが、どちらに蓄積していくのか。

**更家部会長**

事務局も蓄積してレベルアップしていけばよい。

**平田委員**

官庁の人事には、できることとできないことがあると思う。いくら優秀な方でも、数年ごとに異動すればきついものがある。大阪府庁内で今までにない体制作りを検討していただきたい。

**生井委員**

日本ではインバウンドは1,000万人を突破した。今年も1,300万人くらいになるだろう。外国人にたくさん来てもらえるように「ここの公園に来なければいけないんだ」という　ものをはっきりすべき。

日本を訪れた外国人が自然に万博公園に来るだろうという考えは、絶対に捨てなければならない。

**堺屋ゲストスピーカー**

そうするには、組織、制度、権限、プロデューサーが必要。

**生井委員**

ビジョン案は、具体性に欠けていると思う。正直な感想。幼稚園児でもわかるような　　文章にすべき。子供が読んでもわかる文章に。

**中谷委員**

集客するために必要なものは、変化がわからなければならない。何がどう変わったのかわからなければ興味がわかない。また、国際的な視点で公園を造っていかなければなら　ない。そして、創出は大事だが、魅力を発信する方法を考えなければならない。世界に　　向けていかに発信していくのか。

この３つの要素があれば、集客に繋がっていくと考える。それを検討するチームを　　どう作りあげていくのかは、これからの課題。

**更家部会長**

５２ページに広報について触れられている。プロポーザル選定事業者からも提案を　　求めればどうかと思う。

**小泉専門委員**

私は、事務局がプログラムを作ることは、構造上無理だと考える。プロデューサーが　　必要。その人の才能次第というところはあるが。

**更家部会長**

そういう人を発掘して任せるということを、将来ビジョンに入れることはできないのか。

**石川委員**

将来ビジョンに掲載している図面をプロポーザル選定事業者に渡しても、この内容では分からないと思う。

**更家部会長**

事業者が決まれば、審議会にも来ていただいて、意見交換する場はあるのか。

**事務局**

ある。事業者にも参加いただいて、将来ビジョンのバージョンを上げて行くイメージ。我々としては、指示書に相当する将来ビジョンについて、並行して内容をもっと明確に　してグレードをあげてまいりたいと考えている。

**堺屋ゲストスピーカー**

指示を出すのは、相当高度な知識を持った人が必要。シンボルゾーンとなるとなおさら。そういう人を選ばなければならない。普通の役所の組織では難しい。

　どのようなことを、だれに、どの程度任せるのか、を書くこと。そうすれば発注内容がはっきりする。この状態で委託すると事業者に何をされるかわからないし、たいしたものはできない。

**事務局**

行政だけでは限界があることは認識している。そのために、このような審議会を設置し、委員の皆さまにご議論いただいている。今回もプロポーザル事業者が決定すれば、事業者にも審議会に参加していただき、一緒に議論して中身を高めて行きたいと考えている。

**堺屋ゲストスピーカー**

シンボルゾーンの整備も、責任あるプロデューサーを任命すべきであるということを　記載すればいかがか。このままだったら「重点整備をします」ということだけが繰り　　　返されることになると思う。

**小泉専門委員**

ぜひ入れるべき。大変高度な知識、センスが求められる。

**更家部会長**

そういう人を発掘して、その才能をうまく活用するのが最大のポイント。

**堺屋ゲストスピーカー**

少なくとも10年スパンで継続してもらわなければならない。

**更家部会長**

公園全体ではなく、シンボルゾーンの部分だけでも取り入れるべきではないか。

**石川委員**

目標、方向性をきちんと立ち上げるということをしていただきたい。

**堺屋ゲストスピーカー**

そういうことをやってくれる人を指定して、設計図作りだけでなく、運営も任せなければならない。これが大事なこと。人を指定して、府の職員が監視するというような体制を作って、こういう権限を何年間与えるということを、この答申に入れるべき。

**事務局**

運営組織をどうしていくのかについては、検討課題であると認識している。

**更家部会長**

「プロデューサー的な人を入れるべき」ということを答申に入れることはできないのか。

**事務局**

ご専門の方々に入っていただいて審議会を運営している。審議会の役割は、まさに　　そこにあるものと認識している。

**堺屋ゲストスピーカー**

将来ビジョンを具体的な設計図に落とすのを府がやるのか、プロデューサーに権限を　委託してやるかだ。

大阪万博の時には、建築プロデューサーや展示プロデューサーがいた。運営プロデューサーもいた。博覧会事務局がやるのか、プロデューサーに構造図を作ってもらうか。　　「太陽の塔」は展示プロデューサーが造った。事務局が考えた案と全く異なるものが出てきた。プロデューサー優先で今の「太陽の塔」がある。このようなスタイルは、どこの　　　美術館でも取り入れられている。

**事務局**

当審議会との役割分担との整理が必要と考える。

**更家部会長**

審議会は「運営のビジョンをこのようにやったらどうですか」と提案するもの。「プロデューサー的な人を入れるべき」ということを書くのに検討が必要なのか。どのような点で検討が必要なのか、理解できない。

大きなビジョンを受けて、本人の意見を出しながら、ビジョンを設計図に落としたり、経営計画にして執行していくというドライブを実際にやる人なり組織、これがプロデューサーの役割。これがないと責任の所在があいまいになり、公園整備がバラバラで行われることになる。そういうリスクが懸念されるので、こういう考え方が大事ということを　　ビジョンの中に入れるべきだと考える。

審議会で経営計画の図面を作ったり、収支バランスを精細に分析しフィットできる経営計画を作ったりすることはできない。審議会の機能として無理。プロデューサー的な人がやったことを評価することはできるが。

**事務局**

会長と相談させていただきたい。

最後に、53、54ページに記載の事業誘致の件。54ページには、万博公園の土地に　　　　ついて、魅力アップや収益確保の観点から、外周道路沿いを含めて、有効活用を図って　　まいりたいという方向性を記載している。

53ページについては、大阪モノレール万博記念公園駅前ゾーンや外周道路沿いの土地の活用、自然文化園、日本庭園の魅力向上のための活用で事業者誘致を図っていくという　考えを記載している。

**更家部会長**

これは過去からの流れのとおりであり、結構。そもそも既に決まっていること。活用できる土地があるので、そういう流れの中で、収益をあげていただいて、その収益を文化や緑のゾーンの中に入れてレベルを上げるという戦略で行きたい。

**事務局**

個別に土地の形状が異なるので、条件は変わるかと思うが、基本的な方向性は会長の　仰られる方向で進めてまいりたい。

**更家部会長**

皆さん、よろしいでしょうか。以上で、本日の会議を終了させていただきます。

以　　上